

2.8

(6) 5大学による教育連携シンポジウム（5大学連携教育シンポジウム）

教育問題に関する情報交換と教育改革意識の向上および工学教育のレベル向上のため、五大学間で教育連携を図ることを目的として、毎年教育シンポジウムを実施している。五大学とは、山形大学、群馬大学、愛媛大学、徳島大学と本学である。

会議名称：Asian Conference on Engineering Education 2011(ACEE2011)

日 程：October 7-9,2011

会 場：徳島大学



会議会場（徳島大学）

熊本大学から発表（7件）

Oral Presentation:

S. Paturus, On Comparison of Student's Learning Performance under Conventional and Blended Classes at Sam Ratulangi University, Indonesi

Poster Presentation:

K. Tanaka, Construction of "Strength of Materials" Educational Support System by using Microsoft-Excel

Y. Baba, Preservation and Succession of Traditional Skill using Multimedia Technology

R. Ijtihadi, Performance of e-Learning Content Sharing between Learning Management Systems using Differential Content Synchronization over Zigbee Network

S. Dounoue, On Learner's Action during Response to Multiple-Choice Quiz Measured on Moodle by Means of a New Add-on Modul

Y. Fukuda, Flexible Configuration of Display Layout of Moodle for Portable Devices

H. Yamada, Creating Design Process by using TRIZ Concep

この中で、修士2年生の Sary さんが The ACEE2011 Best presentation Award を受賞した。



表彰直後の Sary さんの挨拶



表彰後に谷口学長との記念写真

FD 委員会から旅費支援を受けた出席者コメント

堂上 哲(M2) :

前年度 APSIPA 2010 に続き、2 度目の国際会議のポスター発表で緊張はしたが、前回の経験を活かした発表ができた。

福田 吉真(M1) :

初の国際会議で、英語でのコミュニケーション等緊張した場面もあったが、大変良い経験になった。

馬場 祐基(M1) :

自分の英語力の足りなさを実感するとともに、人間性を磨く良い経験になった。韓国人学生のグループに説明を求められたのだが、事前の準備が万全ではなかったためその場で言葉に詰まってしまうということもあった。また、自分の意思がうまく伝わっていないことはわかっているのに、その誤解をどう説明していいか困惑する場面もあった。今後はより一層英語力を向上させる努力を怠らないようにしたい。

山田 裕和(M1) :

今回初めて国際学会に参加した。日本での開催だったが多くの外国人が参加しており非常に良い経験になった。日本語で喋りかけてくれる方もいたが、日本人でも英語で質問してきたりして自分の英語スキルの未熟さを痛感した。ただ単語だけでも話が通じることが分かり、英語に対する苦手意識は和らいだ。今後世界を相手に仕事ができるようになるには更なるステップアップと、今回の経験を生かして生きたい。

磯邊 雄紀 (B4)

初めての国際学会ということもあり、まず準備段階のポスター作成で苦勞しました。高校時代では短文を英訳することがありましたが、今回のように長い文章を作るのは初めてで苦戦しました。そして発表に関しては発表はなんとかかできても、質問に対しての自分なりの答えを英語で言うのがかなり難しかったです。ただ、今回を通じて特に感じたことは文章よりもやはり図などの方が相手に伝わりやすく、言葉で伝わりにくくても実際に体験させて理解させるなどのことが学べました。



一生懸命に説明中



会場で知り合った発表者と